



# たかまつ

令和7年5月30日  
学校だより  
令和7年度 6月号  
豊島区立高松小学校  
校長 原 雅人



## 困難に立ち向かう姿に寄り添う

～挑戦し、困難を乗り越える力を養う学校

副校長 加藤 英城

5月20日（火）5校時、6年の算数「分数のわり算」の学習。

教師が問います。（T：教師、C：児童）

T「『 $4/5$ （5分の4） $\div 2$ 』、どんな工夫をして解きましたか。」

C「 $4 \div 2$ をすればいい。」

T「どうして？」 C「4は、 $1/5$ が4つと考えました。」 C「答えの2は、 $1/5$ が2つです。」

T「そうだね。うん！確かにそれならできるね！」

T「では、これならどう？」と、本時の問題「 $4/5 \div 3$ 」を示す。

**$4/5$ （5分の4） $\div 3$   
をとう。**

明らかに教室の空気が変わります。静けさに包まれる中、小さな呟き。

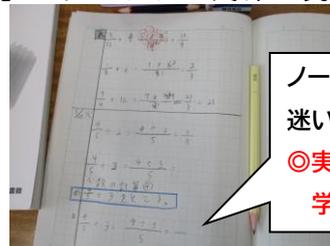
C「え？…で…きない…」 「どうしたらいいんだろう。」

児童は「なんとかして」、分子の「4」とわる数「3」を、「われる関係に変えよう」と、必死に向き合います。教師が声を掛けます。

T「ヒントがほしい人、前においで。」

ここから、教師は、

**集まった数人だけが聴き取れる『ささやき声』で**  
考え方の「ヒント」に導きます。



ノートには、「？」が  
迷いが如実に表れています。  
◎実は「この迷い」が肝心！  
学びのスタートです。

T 4だから2で割れたんだよね。

いまはいくつで割らなきゃいけないの???

C 3。

T そう。3で割り切れなきゃだめだね。4は3で割れる？

C 割れない。

T じゃ、どうしようか。

C 3で割れる数にする?…の?

T 何を???



この数秒後、  
児童がひらめきの  
笑顔で戻ります。

ここで、ささやきヒントをもらっていた児童たちが「動きます！」

**「あっ、そうか。」笑顔で自席に戻って、自分のノートに向かい、問題を解き始めます。**

授業開始からわずか10分の出来事。この瞬間にこそ、授業の醍醐味があり、教師のやりがいがあるのだと実感しました。

教師は決して、自分から「こうしたら？」「こうして見て」とは発していません。**これまでの学習を想起させ、自分が手にしている解決のアイテムを取り出す「手前まで」導きました。**

「4を3でわられる数12に変えたら、なんとか解けそうな気がする。」そんな自信の種を蒔きました。身に付けた力をもとに子供たちが様々なことに挑戦し、失敗しても、何度でも挑戦していけるよう「励まし」、「導き」、困難を乗り越える姿に「寄り添う」。高松小学校にはそんなスキルをもった教員がたくさんいます。学校全体で共有し、スキルアップに努めて参ります。